

P2-7 院内がん登録からみた 当院の大腸がん患者の特徴



島根県立中央病院 情報システム管理室
加村 菜月



島根県立中央病院の概要

- 稼働病床数 568床 (一般：503床 精神：40床 感染症：6床 休床：19床)
- 診療科 25診療科 (院内標榜診療科：40診療科)
- 2023年度実績 外来患者数 941人/日
- 2022年度実績 入院患者数 439人/日
- 2022年度実績 病床利用率 83.6% (一般病棟)
- 2022年度実績 平均在院日数 11.8日 (一般病棟)
- 2005年1月 地域がん診療連携拠点病院に指定
- がん登録実務者 中級1名、初級4名

院内がん登録の年次推移

2022年 部位別登録数

I 目的

- ▶ 当院は地域がん診療連携拠点病院に指定され、島根県内全域をエリアとする基幹病院として多くのがん患者の診療を行っている
- ▶ 特に大腸がんの登録数は多く、近年も増加傾向にある
- ▶ 今回、当院の大腸がん患者の特徴を把握することを目的とし、院内がん登録データを用いて分析を行ったので報告する

II 方法

対象症例：当院の2018～2022年大腸がん症例（症例区分80除く）
 使用データ：「がん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計」公表データ及び島根県院内がん登録データ
 調査方法：データを用いて比較・集計し、詳細についてはカルテよりデータ収集を行った

III 結果

1) 登録件数

▶ 当院の大腸がん登録数は増加傾向にある

4) 発見経緯

▶ 0-I期は「他疾患経過観察」が多く、II期以上は「その他（自覚症状等）」が多い

2) 症例区分

診断のみ	自衛院診断 有施設 初回治療開始 (※)	自衛院診断 自衛院 初回治療継続 (※)	他施設診断 有施設 初回治療開始 (※)	他施設診断 自衛院 初回治療継続 (※)	初回治療 終了後
55	778	0	119	10	30

5) 来院経路（発見経緯：他疾患経過観察）

▶ 島根県と比較して4.9%高い

3) 総合ステージ別（※初回治療開始例）

	0-I期	II-IV期	不明
当院	49.3%	50.3%	0.5%
島根県	46.2%	52.5%	1.3%
全国	48.2%	50.7%	1.1%

▶ 全国及び島根県と比較し、0-I期の割合が高い

▶ 21診療科からの対診依頼があった

IV 結論

- ▶ コロナ禍においても当院の登録数が増加傾向にあることは、がん診療の継続ができていることがうかがえる
- ▶ 0-I期は他科での偶発的な発見が多く、診療科間での連携が図られ、総合病院としての機能が果たしていることが示唆された。それにより、早期発見に繋がっていることが当院の特徴である。
- ▶ 多くの診療科からの対診があったことは、検査目的以外の予期せぬ所見確認への医療安全対策の効果もあると考えられる